

無所属

4期目



**仲間へ勇気!
中前ゆき**

なかまえ 由紀

プロフィール

- 昭和49年生まれ 京都府出身
- 同志社中学・高校、東北大学教育学部卒業
- IT企業や税理士事務所に勤務後、29歳で初当選
- 議会内会派「みなと政策会議」副幹事長、総務常任委員会委員、行財政等対策特別委員会委員長
座右の銘「一期一会」
防災士として防災力の向上に全力で取り組みます。

皆様の声に真摯に耳を傾け、ともに考え、動きます。

予算委員会で現下の行政課題を取り上げました。

鳥の目(大局)、虫の目(現場)、魚の目(潮流)、コウモリの目(発想の転換)を心がけています。

質問項目

地域防災力の底上げ支援、災害時の情報伝達手段を強固に、街にあるAED・消火器の場所をわかりやすく、犯罪被害者支援の強化、安い民間委託への懸念と事業者選定の適正化、事務事業評価の改善と予算編成過程のさらなる公開、行政需要に必要な土地の確保について、動物の殺処分ゼロに向けて、口腔がん検診の啓発拡大、空き地空き家の適正管理、学校図書館の充実、など。(詳細は港区議会ホームページで閲覧できます。)

仲間へ勇気!

港区議会議員 無所属

中前ゆき



港区
の虎の巻

なかまえ由紀

なかまえ由紀が解説する2019年度一般会計予算の特徴

2019年度の一般会計予算(一般的な行政活動にかかる経費全般)は1,415億7千万円です。待機児童の解消やみなと科学館の整備などにより、前年度と比べ約2%の増となりました。

歳入では、区民の皆様が納める住民税が根幹となります。人口増などにより過去最高額の747億円(前年度比33億円増)が見込まれています。減収になる主なものは、たばこ税収入が前年度比約10%(5億7千万円)の減収見込み、ふるさと納税による減収が43億円見込まれています。

歳出では、子ども、高齢者、障害者などに関する民生費が約4割と一番多くを占め、住民福祉に力を入れる予算となっています。

港区は義務的経費の割合が低く、政策判断により自由に使えるお金が多いと言えます。

(港区2019年度予算:約33.8%、2018年度23区平均:約50.2%、2018年度全国市町村平均:約49.5%)

2017年度決算ベースで、区債残高(区の負債)11億円に対し、基金(区の貯金)は1,490億円ありました。

港区は現在、財政的に大変余裕がありますが、それでも次世代に負担を残さないことで、災害等突発的な事態への対応を考えると、効率的な財政運営は欠かせません。当初の予算要求額は1,601億円でしたが、事業の精査などでそれを1,416億円まで落としました。

今後も、無駄を省き、必要なところにはしっかりと予算措置をする、区民ニーズを的確にとらえた区政運営を求めてまいります。



Vol.61

無所属

4期目



仲間へ勇気!
中前ゆき

な か ま え 由 紀

プロフィール

- 昭和49年生まれ 京都府出身
- 同志社中学・高校、東北大学教育学部卒業
- IT企業や税理士事務所に勤務後、29歳で初当選
- 議会内会派「みなど政策会議」副幹事長、総務常任委員会委員、行財政等対策特別委員会委員長
- 座右の銘「一期一会」
- 防災士として防災力の向上に全力で取り組みます。

皆様の声に真摯に耳を傾け、ともに考え、動きます。

この16年間、防災や高齢者福祉をはじめ個別のテーマに取り組みつつ、常に関心を持ってきたのは、政策決定の仕組みの改善、広報と広聴の工夫、透明性の高い区政を築くための評価手法の改善など、住民と区の双方向性を高めるための行政システムのあり方でした。

代議制民主主義では、区民の代弁者として区議会議員が選ばれます。私たち区議が経験したりひらめいたりできることには限りがあり、特に区政のような生活に根ざしたテーマを扱う場では、少しでも多くの方の声をすくい上げ、直接民主主義に近づけていくことが理想だと思っています。

主役は区民です。少しでも多くの方と区政をつなげるために、手法の工夫や自己研鑽に努め、より良い港区、すべての人が輝ける社会の実現を目指してまいります。

なかまえ由紀

すべての人がそれぞれに輝ける社会の実現へ



子どもがいきいき
過ごせる港区へ

多様な居場所作り、
虐待防止、
個性を伸ばす
天才教育、緑の創出
etc.



老いることに
希望の持てる社会を

温かい
介護環境の整備、
生きがい作りを応援、
地域交通の充実
etc.



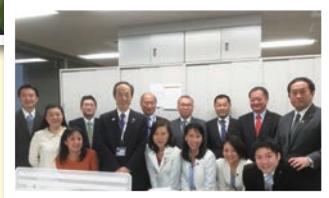
他者の気持ちに
寄り添える港区

犯罪被害者支援、
メンタルヘルス施策、
いじめ被害防止、
動物愛護
etc.



区政を
もっと身边に

ほしい情報につながる
広報体制、気軽に
意見を言える環境整備、
政策決定に区民の
意思を反映しやすい
手法の導入 etc.



富谷区港区の課題とは

高所得者が多く、自治体の財政も豊かというイメージの港区です。

実際に、納税者の平均所得は1,115万円（2017年）で全国1位、区民税収入は747億円（2019年度予算）で、港区史上最高額が見込まれています。区債残高（区の負債）11億円に対し、基金（区の貯金）は1,490億円。（2017年度決算）まさにイメージ通りと言えます。

しかし、年少人口や高齢人口の増加に合わせ、今後さらに施設が必要となるにもかかわらず、建てるための土地がなかなか手に入りません。区内には余っている土地が少ない上に、土地の収益性が高く、売りに出されても、極めて適正価格しか提示できない港区は民間との価格競争に負けてしまうからです。豊かな住民サービスを維持すべく、土地の確保が喫緊の課題です。

また、人口の4倍近い昼間人口にあわせた施策も必要ですが、ふるさと納税等、国の税制改正は、都心の税収に目を付け、奪う方向に進んでいます。自治体間で限られた税収を奪い合うのではなく、都会と地方が連携し、それぞれの課題を補い合い、ともに発展する地域モデルを築いていくべきです。

進化する技術も活用し、新しい時代は共存共栄の社会になるよう、港区から発信していきたいです。



連絡先

〒106-0047 東京都港区南麻布4-11-17-410 TEL&FAX: 03-3446-9033

info@nakamaeyuki.com



www.nakamaeyuki.com



なかまえ由紀で検索

